土砂災害の安全対策を！

宇治市内の土砂災害警戒区域は、１４地域で２６９か所、そのうち急傾斜地の特別警戒区域は１５１か所となっています。今、全国で土石流や崖崩れによる災害が多発しています。宇治市内でも、市街地間近の急傾斜地の崩落もありました。

２０１６年、１７年と２年続いて、市道羽戸山莵道線の、のり面が三室戸寺付近で崩落しました。危険がわかっていたのに対策が遅れたからです。この箇所は特別警戒区域になっていたところです。

災害が起こる前の対策が大事ですが、この１４年間で、京都府による急傾斜地対策事業は１件だけです。

宇治市の市道ののり面の傾斜地が、私有地で、崖崩れの危険があるのに、安全対策ができない小規模傾斜地が各所にあります。崖の高さや傾斜角度が国や府の基準に合わず公的補助が受けられず、所有者も費用負担面で対策ができない危険な傾斜地です。所有者責任ということで放置しておいていいものか、災害対策上の問題点です。

全国では、市独自の支援制度をつくっているところもあります。あの熱海市の対岸の横須賀市は、崖の高さが２メートルの小規模傾斜地に対して、市独自の予算を組んで、工事費の２分の１（５００万円まで）補助する制度をつくっています。

個人の自己負担だけでは管理が困難な急傾斜地の保全事業に、
市の支援策を早急に制度化するように求めましょう。

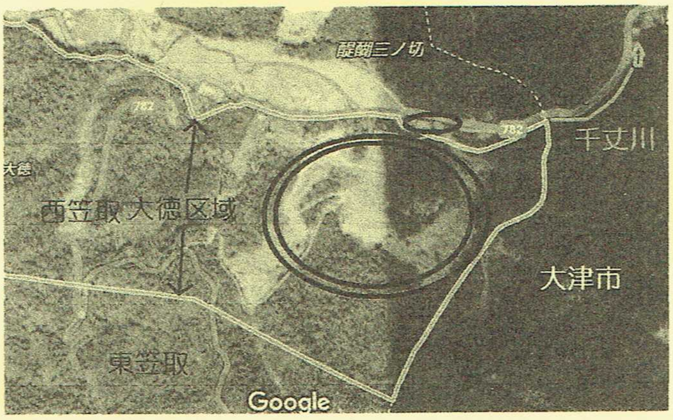
西笠取大徳地域の危険な山地の安全対策を

土砂災害の危険は自然の急傾斜地だけではなく、熱海市のように、林地を伐採して産廃などを埋め立てた斜面でも起こります。近隣の伏見の大岩山でも産廃盛土の土砂崩れがおこっています。

本市でも北東端の、西笠取大徳に危険な山地があります。右の写真、醍醐三ノ切や大津市千町と接している地域です。二重円のところは林地伐採跡です。楕円の三ノ切付近には産廃とみれる盛土も。

この山林の各所に産廃があり、その上の盛土が崩壊しないか、大津市の住民や、農林関係者の不安が高まっています。

（西笠取大徳の山林伐採跡地）



国、府、近隣市とも連携して、盛土の安全対策を早急に！

日本共産党宇治市会議員団
議員団だより
2021.11.21
宇治市宇治琵琶台３３
宇治市役所内22-3141(内線2817)
FAX 24-7884

議員団へのご意見等 →

法律相談
毎月第一金曜日 午後２時から
共産党議員団控室
事前に党議員にご連絡ください